

P1-026

鳥取県米子市学校検尿30年間のまとめ

岡田 晋一、神崎 晋

鳥取大学 医学部 周産期・小児医学分野

【緒言】

学校検尿は1974年（昭和49年）から全国で開始され小児慢性腎疾患の早期発見管理に貢献してきた。今回、鳥取県米子市の学校検尿の30年の実態について検討した。

【方法】

昭和53年度（1978年度）から平成27年度（2015年度）でデータが得られた30年間に学校検尿を受検した米子市内の小・中学生、のべ406,530人を対象とした。また、同期間に学校検尿以外を契機として発見され腎生検を施行された32例を比較検討した。検討項目は、最終精密検査対象者数、総合判定内訳であり、腎生検施行例については、最終診断名、予後も検討した。一方、同期間に学校検尿以外で発見され腎生検を施行した症例では、その発症様式、腎生検所見、予後等について比較検討した。

【結果】

2,523/406,530人（0.62%）が3次精密検査対象者数であった。最終総合判定内訳は、糸球体腎炎（疑い含む）44名、ネフローゼ症候群6名、尿路感染症11名、起立性蛋白尿122名、無症候性蛋白尿血尿73名、異常なし273名、その他73名であった。慢性腎炎として腎生検を施行されたのは47例であり、腎生検所見はIgA腎症が28例と最も多く、微小変化が7例、非IgA型増殖性腎炎が4例、紫斑病性腎炎、巣状分節性糸球体硬化症が1例ずつ、その他6例と続いた。一方、同時期に学校検尿以外で発見され腎生検を必要とした症例は35例であった。急性発症例が多く、肉眼的血尿、浮腫、蝶形紅斑、紫斑などを契機に発見されていた。腎生検所見は紫斑病性腎炎が9例と最も多く、ループス腎炎、巣状分節性糸球体硬化症がそれぞれ5例ずつ、IgA腎症が5例、微小変化3例、非IgA型増殖性腎炎1例、その他7例であった。予後については、学校検尿発見例では、IgA腎症をはじめとする慢性腎炎症例はそのほとんどが加療により尿所見が消失した。若年性ネフロン癆の1例が末期腎不全となり、間質性腎炎1例が保存期慢性腎不全となった。一方、学校検尿以外で発見された症例でも検尿所見は多くは改善し、末期腎不全となった例はIgA腎症1例、巣状分節性糸球体硬化症1例であった。

【考察】

学校検尿で発見された慢性腎炎症例では末期腎不全に至った例はなく、学校検尿は慢性腎炎の腎不全移行の阻止に効果があると考えられた。

P1-027

「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の実施を通じて

香月 雅子、小林 信秋、福島 慎吾、荻須 洋子、
本田 睦子

認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク

【目的】

平成27年1月より『小児慢性特定疾病児童等自立支援事業』が始まり、各都道府県、指定都市、中核市において、慢性的な疾病を抱える児童や家族の負担軽減や、児童の自立や成長支援のため、地域資源の活用など必要に応じた支援を行っている。必須事業である相談事業をはじめ、任意事業として日常生活の支援や、患児同士の交流支援、就労支援など、利用者の環境に応じた支援を行うことになっている。東京都では約7,000名の小児慢性特定疾病児童がおり、認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク（以下難病ネット）では、東京都より委託を受け実施している。

【方法】

難病ネットで行っている自立支援の内容としては、相談事業としてこれまでも行われていた電話相談、遺伝相談、ピアサポート等がある。また、交流支援としては毎年行われているサマーキャンプがあり、医師、看護師など大勢のボランティアが参加し、どんな障害や重症の子どもも受け入れ、医療的ケアのある子ども達や家族も安心して参加できる交流活動として全国9か所で行われている。山梨県北杜市にレスパイト施設「あおぞら共和国」を建国し、病気や障害のある子ども達と家族が、好きな時に気兼ねなく過ごせる場所を提供している。また、これまでも行っていた事業として、病院内で遊びを提供するプレイリーダー活動があるが、自立支援事業として「遊びのボランティア」を開始し、長期入院中やレスパイト入院中の病棟、在宅療養中の自宅へ訪問し、楽しい時間を過ごしている。

【結果】

相談事業では、情報提供や同病の人同士の紹介や、漠然とした不安な気持ちを傾聴することにより、病気の子どもの育てている親が孤立しないよう支援している。またサマーキャンプでは、医療的ケアがあるために外出や旅行などに行かれない家族が安心して楽しむことができ、他の家族との交流を深めている。遊びのボランティアでは、病棟や自宅へ訪問することで、子どもの成長発達に大切な遊びを通じて病気や治療に対する不安を軽くし、同時に親への支援にもつながっている。

【考察】

自立支援といっても、自立のかたちは人それぞれであり、必要としている支援は様々である。特に重い障害や重症の子どもを育てている保護者にとって、どのような支援が必要なのかは多様である。様々な問題を抱える中で、子ども達や家族を孤立させることのないよう寄り添い、一緒に考えていく事が重要である。